

土佐希望の家通信

<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/
http://www.i-kochi.or.jp/hp/tosakibo/ Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

HAPPY LIFE
家族の窓
3病棟ひまわり
島崎純一様



自立支援法から3年

自立とは、純一がどう向き合っているか親の私にも支援法が理解できているのか。まずは純一の心を見つめてみよう。それには母親の心を変え努力をしなければと、あらゆる障がい者の理解を深めようと「両親の集い」や報道での勉強、全国大会にもできるかぎり出席しました。全国の親の会の心を理解して、親同士とのつながりを大切にして欲しいと努力不足な私の気持ちを末光先生が理解してくださり「お母さんと同じ心の持ち主が居るよ」と岡山の守る会会長を紹介してもらいました。

お話をするなか「亭主のウンチは臭くても我が子のは臭くないよね」の言葉に同じ気持ちだとホッとしました。

夏休み、純一と生活するなか、帰宅途中4トントラックが目の前に止まり「純ちゃん、病気が良くなればお仕事は運転手をする?」と問いかけると「嫌」という返事が返ってきたので「何を?」と再度問いかけると「希望の家の職員」の名前をあげた。自立に努力をしている純一を目の当たりにした。

職員の指導に感謝するとともに、純一ありがとつ。希望の家で良かった。ありがとうございました。

島崎長子

ボランティア紹介

三和地区婦人会
(南国連合婦人会)様



11月には三和婦人会の方が来てくれました

南国連合婦人会の年間行事の一つとして毎年おじゃましています。私も退職後、婦人会に入会し何度か訪問させていただいています。

三和地区婦人会も高齢化し、この作業にも「疲れない」と言えば嘘になりますが、年に一度のボランティアが少しでもお役に立っているのかな!と思うと心癒された気分となり、わずかな時間ですが、少しでも多くと気持ち良く取り組み動作についてい力が入ります。又、何度おじゃましても職員様の献身的な態度、イキイキ、ハツラツと取り組んでいる姿、活気ある挨拶に頭が下がります。

本当に一分でも多く入所の方に力を注げるよう私達で出来る事があればいつも思っています。職員さん一同に心から感謝し、自身に「力」をいただいて帰ります。最後にありがとうございます。

三和地区婦人会 三谷節子

希望の家祭



十月十二日(日)、希望の家祭が開催されました。お天気も上々で、日差しが強いくらいに晴れ渡りました。わっとほっとブラザーズ、新人職員、希望の家分校、在宅支援センター、大正琴の皆さん、各病棟、ファシオンショーなどステージでの出し物に頑張りました。伝説の「希望の家音頭」も復活。最後は、みんなで一斉に紙風船を空に飛ばしました。

施設内には各病棟、学校、リハビリなどからの作品展示がきれいに並びました。喫茶も大忙しで、カレー、お好み焼きなどは早々に売り切れるなど大盛況。フリーマーケットにもたくさんの方々が集まりました。

私の仕事

3病棟看護師
松坂充顕



3病棟の看護業務は病棟が西と東に分かれている関係上、日によって勤務が西だったり、東だったりします。同じ病棟なのですが、入所の方のタイプが違うので、別の棟に勤務しているように感じる時があります。

勤務の日は、まず西棟に出勤するのですが、病棟に入ると定位置のある方がいつもの場所にいらないと「何かあったのかな?」と気になります。そんな中で西棟の泰則さんは、僕の顔をみると「まっちゃん、おはよう」と必ず声をかけてくれ、その声が「今日も一日頑張ろう」という気持ちにさせてくれます。

希望の家は、皆様ご存知のとおり重症心身障害児者施設で、法律上も医療法と児童福祉法との二面性があります。そんな施設で働く看護師として、医療面としての視点だけでなく、福祉面の視点ももった職員として働いていきたいと考えています。

それから、他県の重症心身障害児者施設の職員と交流する時、看護師が集まらないという話を耳にします。なぜ集まらないのか様々な理由はあるのだと思いますが、これがあるから重症心身障害児者施設の看護が楽しいんですよ!という事を、アピール出来る看護師を目指して、今後も頑張りたいと思います。



尾崎高知県知事にも来ていただきました。知事は、利用者にも保護者にも人気で、たくさん写真を撮りました。その他、今回の希望の家祭では、学生さんや社会福祉協議会など地域の方々のボランティアにも支えられました。感謝。

「希望の家音頭」が復活!!



喫茶コーナーでのクッキー販売



11月

【寄付金・寄付物品】

久富久貴様 谷崎晴登志様 森下泰代様
森田光子様 西岡愛子様 高知ライオンズ
クラブ様 山崎伸明様 大久保由美子様
坂田二子様 山本茂登子様 海洋堂様 川
村紀久子様 久武康男様 宮田敬三様 小
松美代子様 南国市社会福祉協議会様

【ボランティア】

原音楽教室様 島崎音楽教室様 西川理
容様 高知女子大学様 ういず様 高知J
ゴスベルクラブ様 末日教会イエスキリスト教
会様 平松あずさ様 高知北ライオンズ
クラブ様 高知福祉専門学校様 龍馬看
護ふくし専門学校様 高知医療学院様
土佐リハビリテーションカンパニジ様 高知市
社会福祉協議会様 南国市社会福祉協議
会様 米田佳余子様 吉田豊子様 浜田好
美様 田所まい様 RKC調理師学校様
三和婦人会様

ありがとうございました。
今後ともよろしく願います

☆ 編集後記 ☆

今年も希望の家祭が無事終わりました。今年には晴天に恵まれ、職員もホッとしています。最後に飛ばした希望の紙風船もきれいでしたね。これから寒くなりますが、風邪に気を付けて冬を乗り切りましょう☆

利用者の皆さんの作品販売



尾崎高知県知事と記念撮影



希望の紙風船を大空に飛ばしました!





さわやかな秋晴れでした！

ほとんどの利用者の方たちは汽車に乗ることが初めてでした。また、保護者の方も、高架橋を走る「こめん・奈半利線」に乗るのが初めての方が多く、海岸沿いを走る車窓から見える漁港や太平洋の眺望に至福のひとつを楽しみました。

皆さん一様に「よかった〜あ」のコメントでした。

桂浜一泊旅行(2病棟)



龍馬さんの前で記念撮影

十一月十二、十三日、2病棟初となる一泊旅行に行つて来ました。行き先は月の名所「桂浜」です。その記念すべき第一回目は、大野健一さんと岡崎宗一郎さん。保護者以外は、職員全員男性というメンバーでした。

初日、園を出て、イオン高知に行きました。到着早々気持ちが入りすぎたのか、全員降車した為、運転手さんの、「皆、おりてどうするの？」の声に、バスを見れば、健一さんと宗一郎さんだけが二人残っており、皆で爆笑したことでした。



中西 純

伊オンでは、健一さんが土佐の昔話のビデオを、宗一郎さんが帽子とコンバースのバスケットシューズを買いました。昼食は、フーodorコートで、ステーキやハンバーグを美味しくいただき、ゆつくりショッピングをしてイオンを後にしました。桂浜のお宿は桂浜荘で、太平洋が一望できる素敵な所でした。

先ずお風呂に入りましたが、湯船から眺めるお月さんが本当にすばらしかったです。また、健一さんを抱っこして浴室から出ようとする、見知らぬおじさんが、何も言わずそと扉を開けて下さったのがとても嬉しかったです。

夕食は、海の幸に舌鼓を打ちました。翌朝は、穏やかな暖かい日中で、坂本龍馬さんの銅像を見に散歩したり、水族館のアシカやイルカのショーを見て過ごしました。昼食は、わんぱく高知で食べ、その後、散歩がてら、動物園をゆつくり見物しました。

帰りには、少し疲れた健一さんと、ニコニコ笑顔の宗一郎さんと相対的な表情がおもしろかったです。久しぶりの一泊で反省材料も多々ありますが、今後も記憶に残る一泊旅行にしていきたいと思っています。

スノーブレンなどの専用の部屋が病棟外にあるので場所の変化があり、創作活動でできた作品の展示会を開くなど、意欲を引き出す工夫をされていました。こうした取り組みを16年前に始め、徐々に広げてきたとのことでした。利用者の余暇や生きがい作りにつながる活動をとても大切にしていることを感じ、希望の家でも取り入れたと思います。

特に興味深かったことは、病棟の職員以外に療育指導係という部署があり、専任の職員(5名)を配置しておこなっていた所内デイという取り組みです。所内デイとは、病棟外の部屋に各病棟や通所を利用されている方が集まり、スノーブレン、粘土、紙すき、園芸、遊具遊び、感触遊びなど、利用者の方の興味のあるメニューを療育指導係が中心になつて設定し、病棟職員や理学療法士・作業療法士と連携を取りながら行っていました。

八月二十五日から三十日まで研修に行つてきました。花ノ木医療センターは京都府亀岡市にあり、希望の家と同じ重症心身障害(児)者施設で利用者数は150名です。3つの病棟に分かれており、主に3病棟の1ブロックで研修を行いました。その他にも通所施設の見学も行いました。1ブロックは、利用者数は20名で、重度の知的障害を持つ方や行動障害を示される方の多い病棟でした。

1病棟療育員
川島敬三

施設実習報告(2)



花火を手にとってみんなで花火大会



南側駐車場が会場になりました！

九月七日(日)、夕方から花火大会を開催しました。「みやけ太鼓」から始まり、たくさんのきれいな花火をしました。周りが暗くなると、花火の光がいつそう映えて、夏の終わりをみんなで楽しみました。

花火大会☆



十月三日(金)、豊ノ島園が土佐希望の家に来園されました。利用者の方との写真撮影、利用者からの質問にもたくさん答えてもらいました。その後、2病棟の各居室を回られ、利用者ひとりひとりの手を取って、記念撮影していただきました。

短い時間でしたが、利用者、職員は人気の豊ノ島園に大興奮で、たいへん楽しい一日になりました。みんなで応援しているので、これからも頑張つて下さい。また来てくださいね！



第12回スピリットアート入選しました！



村上初子さん作「ホタル」と小松義幸さん作「サボテン」が入選



相撲好きの太さんは背中に直筆サイン！

在宅支援センター主任
濱田美和

施設実習報告(1)

八月二十三日〜二十五日の三日間、兵庫県西宮市にある砂子療育園通園部「つばさ」に施設実習に行ってきました。育成課長の田中さん(小谷療育部長と飲み友達だそうです)に施設の案内をしてもらいましたが、病棟はすぐに外(ベランダ)に出られるよう、バリアフリーで、ベンチやテーブル、芝生が青々としてとてもいい感じでした。

また、どの病棟も「天井走行リフト」を使用し、職員の腰痛問題だけでなく、利用者の快適さ、負担の軽減を考えて使用されている点では、今後私たちも考えていかなければならない問題だと思いました。

通園については、人工呼吸器の方7名の登録があり、看護数は5名でした。通園を利用しながら、ヘルパーや訪問看護を上手に利用している状況、そしてそのご家庭に関わる専門スタッフが情報交換をしている様子を見せて頂き、大変刺激的でした。ご利用者のニーズによってメインの日中活動に違いがあったり、個々のご利用者のニーズにどのように対応していくか同じ様な課題に共感しました。また、私たちの通園の良き「元気な挨拶」はどこにも負けていない、マンネリ化と悩んでいると聞くみについても、「継続は力なり」と感じることもできました。

三日間と短い期間で表面的なことしか見れず、是非機会があれば、一週間を通して実習に行き、中身を深めていけたらと思います。